



暮らしを彩った華麗な調度品を展示！ 企画展「プリンセス・トクガワ—徳川家ゆかりの女性たち」

1867年、13歳で渡欧した徳川昭武は、現地報道で「プリンス・トクガワ」と紹介されました。帰国後、将軍の後継者とみなされていた高い地位を失いますが、生涯を通じて華美を好まず、日常を愛する趣味人の気質が有ったようです。一方、環境が激変する中で、昭武の家族をはじめとした徳川家の女性たちはどのような暮らしをしていたのでしょうか。

幕末から昭和にかけての徳川家の女性たちに注目し、初公開となる寄贈資料のほか収蔵資料を中心に、彼女たちの暮らしを彩った華やかな婚礼調度などの品々を展示します。

◆**会期** 令和2年10月17日（土）～令和3年1月11日（祝）

※**プレス内覧会：令和2年10月16日（金）14時～15時**

◆**会場** 戸定歴史館展示室

◆**費用** 戸定歴史館入館料 一般150円（共通入館券一般は320円）
高校・大学生100円（共通入館券高大生は160円）
※中学生以下無料

◆**展覧会概要** *構成案、展示品は暫定のものです。

➤ **第1章 江戸城大奥と水戸藩の奥—近世と近代をつなぐ女性たち**

幕末から明治時代初期の徳川家の女性同士の交流に注目します。天璋院の古写真をはじめ、初公開となる消息（書簡）を通じて、「奥」の交際を明らかにします。

吉子女王（有栖川宮家、斉昭夫人）、一色^{いっしきす}寿賀（慶喜付き老女^{よしこ}1）など

展示品：大奥老女消息（吉子女王宛）、一色寿賀書、古写真、和歌短冊 等

➤ **第2章 葵の姫—徳川家で生まれ、嫁いだ女性たち**

成長儀礼や風習など江戸時代を色濃く残す水戸徳川家、近代に順応しつつも書や絵画を学ぶ伝統を続けていた徳川慶喜家など、誕生から嫁ぐまでの生活を人、家ごとに紹介します。

有栖川宮^{たるひと}熾仁親王妃貞子（水戸徳川家）、高松宮^{のぶひと}宣仁親王妃喜久子（徳川慶喜家）など

展示品：命名書（毛利政子・松平直子・徳川^{ときこ}宗子）、ブローチ（喜久子妃遺品）等

¹ 老女…武家の奥向きで侍女を束ねる立場の女性。寿賀は慶喜の側近くで身の世話をした。



➤ **第3章 葵の夫人—徳川家に嫁いだ女性たち**

古典や婚家の教えに親しんだ水戸徳川家の夫人たち、有栖川宮家ゆかりの書道「有栖川御流」を受け継ぐ徳川慶喜家の夫人たち。それぞれの婚礼までの流れも紹介します。

徳川八重（昭武後妻）、徳川 ^{みえこ}実枝子（慶久夫人、有栖川宮家）など。

展示品：徳川実枝子和歌短冊・懐紙、古写真、徳川盛子筆写「和漢朗詠集」等

➤ **第4章 華麗なる調度品**

現代まで伝わった水戸／松戸徳川家伝来の婚礼調度と、有栖川宮家から徳川慶喜家に嫁いだ実枝子女王の婚礼調度の一部を、かつての様子を写した古写真と展示します。

展示品：葵紋付婚礼調度（松戸徳川家伝来）等

➤ **第5章 生家と婚家、それぞれへの思い**

夫や息子の思いを世に広めようとした秋庭、実家である徳川慶喜家の墓所改修事業に関わり、東京都史跡指定への道筋もつけた喜久子妃。それぞれの徳川家への思いに迫ります。

展示品：徳川秋庭書「農夫小置物由来書」等

◆**展示品（抜粋）**



徳川実枝子（桂袴姿）
1914年11月撮影



和歌短冊・徳川実枝子筆



徳川直子（結婚衣裳）
1920年11月14日撮影

【問い合わせ先】

生涯学習部戸定歴史館 ☎047-361-0056